



**ビートルズ**を作ったのは、  
リヴァプールでなく**ハンブルク**

# ハンブルク ビートルズ

監督：ロジャー・アプトン

©2024 A BI Hamburg Production Ltd



## ジョン・レノンが 「僕らはリヴァプールで生まれ、ハンブルクで育った」と語る ハンブルク時代を元メンバー＆関係者らが証言

誰もが知る伝説のロックバンド、ザ・ビートルズ。ビートルズがリヴァプール出身なのは周知の事実だが、生前ジョン・レノンは、「僕らはリヴァプールで生まれ、ハンブルクで育った」と語っていた。本作は、1960年のハンブルク初訪問の経緯から、1963年の「プリーズ・プリーズ・ミー」のヒットを経て、1966年の6回目の訪問までを、元メンバーと関係者の証言やアーカイブ映像と音声、アニメーションなどを使って、まるで昨日のことかのように生き生きと蘇らせる。

ポール・マッカートニーは、「手錠で繋がれ、囚人のように飛行機に乗せられた」という、強制送還となった事件の経緯を説明。脱退したスチュアート・サトクリフと付き合ったアストリッド・キルヒヘアは、初めてビートルズの演奏を見た経緯から、スチュアートが亡くなったのを知った際のジョン、ポール、ビート・ベストの三者三様のリアクションを詳細に語る。リトル・リチャードは、「ジョン・レノンのような人には会ったことがない」という楽屋でのエピソードを披露。ビートルズのレコードプロデューサーだったジョージ・マーティンは、ビート

・ベストをリンゴ・スターに替えた理由を告白し、リヴァプールの「キャヴァーン」でのライブまでビートが外されたと知らなかった当時のファンは、「ビート、フォーエバー。リンゴ、ネバー」と叫んだという当時の様子を回想する。

後のインタビューでジョンは「ハンブルクではステージで寝たり、食べたり、悪態をついたりして、全くの“自然体”だった」と話すが、その後、「キャヴァーン」でのファンクラブナイトに参加したファンは、「ビートルズは全身レザーで登場したが、ワンセットが終わったら、スーツに着替え、その後レザー姿は見なくなった」と転換期を目の前で目撃。

およそ6年に渡るビートルズの初期を、時系列で追体験するドキュメンタリーが、2024年、約60年の時を経て、完成した。『ジョン・レノン 音楽で世界を変えた男の真実』のロジャー・アプルトン監督の最新作が世界初公開。



監督：ロジャー・アプルトン  
出演：ビート・ベスト、アラン・ウィリアムズ  
(アーカイブ映像) ジョン・レノン、ポール・マッカートニー、ジョージ・ハリスン、スチュアート・サトクリフ、  
ジョージ・マーティン、アストリッド・キルヒヘア、リトル・リチャード

2024年 / イギリス / 57分 / カラー / 1.85:1 / 5.1ch / 英語 / 原題 "No Hamburg No Beatles" / 字幕監修：藤本国彦 / 配給：NEGA

[beatles-filmselection.com](https://beatles-filmselection.com)  [beatlesfilm](https://twitter.com/beatlesfilm)

# 2024年12月6日 ROAD SHOW